

地域の伝統文化や歴史に携われることに感謝

八代神社宮司（日奈久温泉神社宮司兼務）

小林 緑郎 さん（妙見町）



『ずっと日奈久で暮らすんだらうな』と思っていた。出身は天草。10歳のときに日奈久温泉神社の宮司となる父と一緒に日奈久へ移住してきた。神主になるつもりはなかったが、長男なので土日などは手伝いが必要になるかもしれないと、大学卒業間際に講習や実習を受けて神主の資格を取ることにした。ところが、熊本市の藤崎宮での実習が縁で、八代宮の権禰宜（補佐役）として勤めることになる。その後、父の後を継ぎ、日奈久温泉神社の宮司となった。

走るのが好きで、高校1年まで陸上部に所属。帰省した20代には市内一周駅伝や三太郎駅伝大会に選手として出場し、30代には地元の小学生たちを指導した。

転機が訪れたのは平成5年。八代神社（妙見宮）の宮司が急逝され、後任の話が舞い込んだ。就任して、やがて21年になる。印象に残っているのは、平成20年4月に里帰りした妙見宮祭礼絵巻。海外流出の恐れがある中、『八代の宝だから何とかしなければ』と寄附などを呼びかけ、京都の個人から買い戻した（現在は博物館に寄託中）。また、人口減少



▲妙見祭で斎主を務める小林宮司（平成25年）

と少子化が進む中、『このままでは馬を引く人がいなくなってしまう』と後継者を育成するため、平成15年に「妙見宮子供飾馬奉納会」を青年会議所OBの人たちと創設。ポニーと一緒に元気よく砥崎の河原を走る子どもたちの姿を、毎年見ることができるようになった。

ちょっとしたつながりで思いもよらないことが実現したり、市民の皆さんに妙見さんを大事に思ってもらっていることを実感することがあると言う。例えば、知人に「市外から来られた人が『ガメや獅子は見られないんですか』とよく言われる」という話をしたのをきっかけに、八代ロータリークラブの50周年記念事業として境内にガメや獅子などの展示館ができあがった。草が生い茂った中宮を整地し、お宮を建てたら、お参りされる人たちが寄附を募り鳥居、玉垣、井戸、手水舎と自分たちで次々に整備されたことにも感銘したそうだ。

八代神社は、2016年に妙見神渡来1350年祭を迎える。約400年が経過する本殿は、雨漏りや地盤の傾きなどで傷みが目立つことから、総代会に諮り本格的な解体修復に踏み切ることになった。「傷みがひどすぎて心苦しかった。神様の場所をきれいにしたい」と胸の内を明かす。

妙見祭の神幸行事が国指定重要無形民俗文化財となるなど、八代神社も市内外から益々注目されるようになった。「地域の伝統文化や歴史に携わりながら生活できることが、ありがたい。がんばっていかなければ」と語る。



2014.JULY

No.115

- 3 八代神社本殿 保存修理工事進む
- 4 市立博物館 夏季特別展覧会
弥生人を追跡せよ!!
- 5 始まっています ハッピーブック運動
- 6 国民健康保険・国民年金
- 8 後期高齢者医療保険
- 10 介護サービス 利用までの流れ
- 11 予防が肝心 熱中症
- 12 安心・安全な道路に
- 16 平成26年度 八代市職員募集 <後期日程>
- 18 暮らしの情報
- 24 市民カレンダー
- 28 暮らしの情報
- 広告
- まちのわだい
 - 全国シニアソフトボール熊本県八代大会
 - 八代市総合防災訓練
 - 米国の美術学部学生が学習旅行
 - こどもプラザ「わくわく」オープン
 - 氷川ダムかき殻まつり
 - 100歳おめでとうございます
 - 八代広域行政事務組合消防表彰
 - 干潟観察会
- 他6件
- 31 伝言板
- 32 丑の湯祭り